

大学・短大「全入」検証

旺文社 教育情報センター 09.08

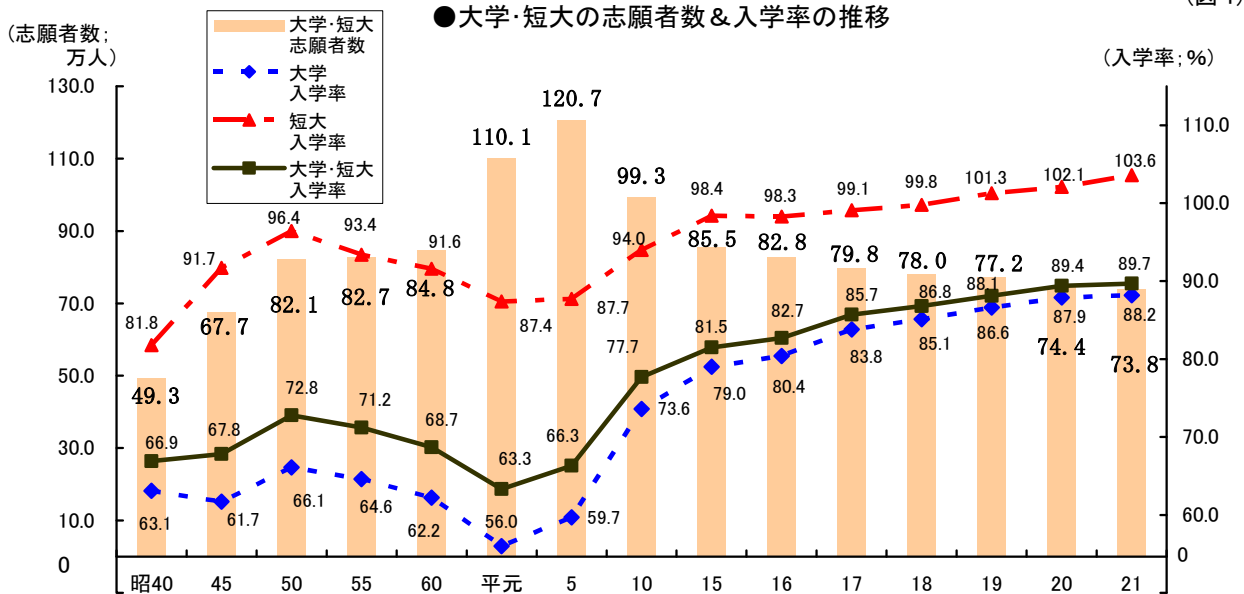
●「大学・短大」入学状況の実績と予測

(表 1)

17年				20年				
	実績	予測	差(実績-予測)		実績	予測	差(実績-予測)	
17年	志願者数	79万8,000人	79万3,000人	5,000人	志願者数	74万4,000人	63万人	11万4,000人
	入学者数	70万3,000人	70万4,000人	△1,000人	入学者数	68万4,000人	63万人	5万4,000人
	収容力	88.10%	88.82%	△0.72ポイント	収容力	91.99%	100.00%	△8.01ポイント
18年	志願者数	78万人	73万9,000人	4万1,000人	志願者数	73万8,000人	61万8,000人	12万人
	入学者数	69万4,000人	70万3,000人	△9,000人	入学者数	68万2,000人	61万8,000人	6万4,000人
	収容力	88.97%	95.11%	△6.14ポイント	収容力	92.43%	100.00%	△7.57ポイント
19年	志願者数	77万2,000人	67万4,000人	9万8,000人				
	入学者数	69万8,000人	67万4,000人	2万4,000人				
	収容力	90.48%	100.00%	△9.52ポイント				

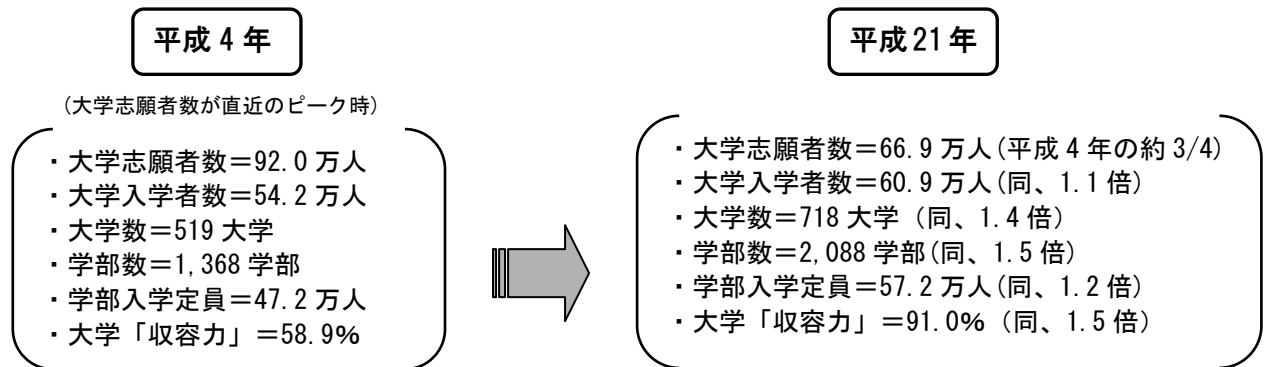
注: 表中の「予測」は、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」(17年1月)で提示された数値。19年には「大学・短大」志願者数と入学者数とが約67万4,000人で一致し、「全入」になると予測。

●大学・短大の志願者数&入学率の推移 (図 1)



●大学の需給実態(短大を除く)：志願者数減の中で、増え続ける受け皿

(図 2)

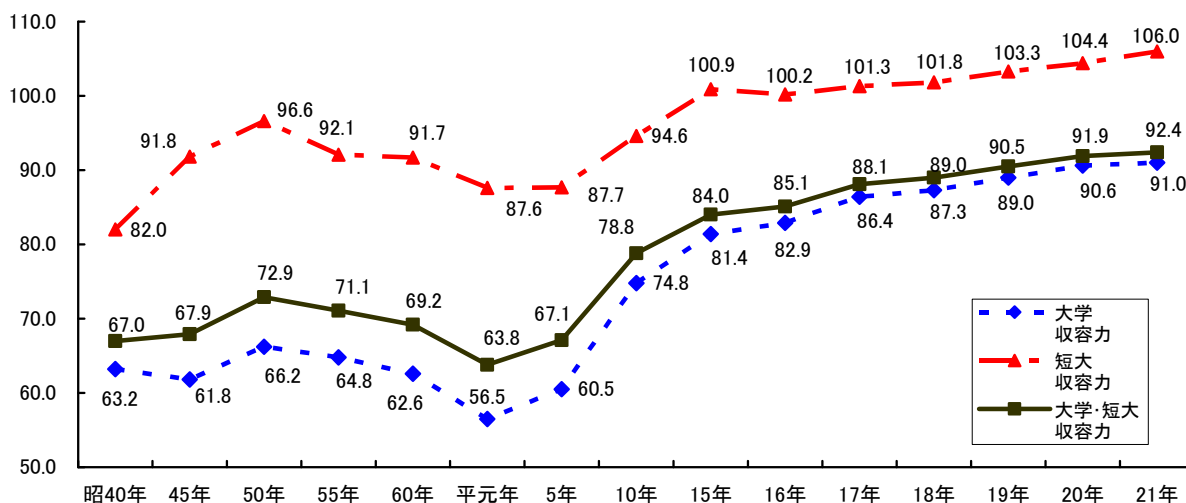


注. ① 大学志願者数は、高等学校(中等教育学校後期課程含む)経由の受験生数(実数)。
 ② 大学入学者数は、「外国の学校卒」等、高等学校経由以外も含む全ての入学者数。
 ③ 大学数は、大学院大学、募集停止を除く。
 ④ 学部数には、学群、学域を含む。

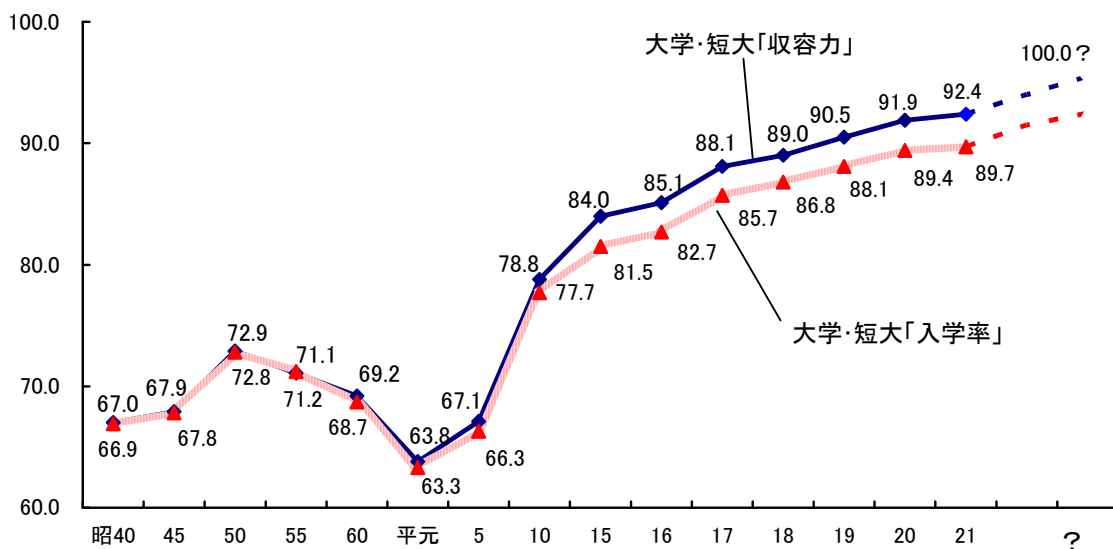
(「学校基本調査(速報)」、「全国大学一覧」等による)

* 「収容力」(%)=入学者数(大学側調べ) ÷ 志願者数(受験生数：高校側調べ)
 * 「入学率」(%)=入学(進学)者数(高校側調べ) ÷ 志願者数(受験生数：高校側調べ)

(図 3) ●大学・短大の収容力の推移



(図 4) ●大学・短大の収容力と入学率の推移



○ 大学・短大が「全入」（「収容力」＝100％）になると予測（中教審『高等教育の将来像』答申：17年1月）された19年から2年経過したが、「収容力」は90％台前半で、大学に限ると91.0％に留まる。

これは、18歳人口、高卒者数の減少の中で、予測を上回る大学・短大の「現役志願率」（21年予測値＝55.9％→実績値＝61.2％）の伸びや、私立大の大規模校を中心とした合格者絞込み、入学者数微増などに起因するとみられる。

○ 今後の動向としては、①18歳人口の減少率に歯止めがかかり、今後10年ほどは120万人程度で推移する第2の“下り階段の踊り場状態”（第1の踊り場状態は12年～14年）が続く／②厳しい経済状況・雇用情勢の下でも、将来のキャリアパスの観点などから大学への現役志願率は依然として上昇傾向が見込まれることなどから、「収容力」は漸次、上昇するものの、文字通りの“全入”にはならないとみる。

また、「入学定員充足率」の状況を見ると、国公立大は規模や地域に関わらず、ほぼ充足している。

他方、私立大は定員800人未満の小規模校や地方、私立短大は全規模及び全地域での未充足の割合が高い。

こうした傾向は今後も続くと思われるが、進学コストの面から、充足率は、国公立大ともに都市部で低下、地方で上昇（地元志向）傾向が当面、続くと思われる。